

Co-Creation+

成安造形大学 未来社会デザイン共創機構
2021年度 研究・連携活動事例集

芸術研究と社会を結ぶ、研究機関 「未来社会デザイン共創機構」

成安造形大学 未来社会デザイン共創機構は、学園建学の精神「成安・誠と熱・実践教育」および大学基本理念（教育理念）「芸術による社会への貢献」を、今日的条件下で、より力強く実践・展開することを目的として2021年4月に設立しました。社会との共創により、芸術研究を深化・拡張させ、新たな価値の創造とより良い未来社会の実現を目指します。

設置理念

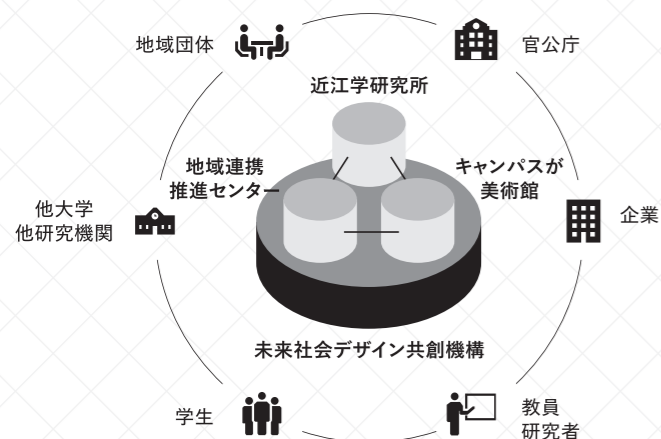
芸術研究と社会を結ぶ、産官学民連携の場を作ります。
主体的な姿勢で社会と共に創造的サイクルを生み出します。
芸術分野がどのように社会へ貢献できるかを、誠意と熱意を持って議論します。

芸術分野と様々な社会テーマの交点を捉え、特色ある今日的芸術研究を推進します。
横断的視点を重視し、新領域や融合領域の創出を推進します。
社会課題の共有により組織的連携を推進し、基礎研究段階からの共創を目指します。
相談案件や研究プロジェクトの舵取りを行い、研究・連携支援の一元的窓口となります。
研究の成果を積極的に社会へ発信することにより、新たな共創を構築します。

未来社会のあり方を考え、人間環境の改善に資する様々な研究の創出を目指します。
こころの豊かさや安らぎの獲得に資する様々な研究の創出を目指します。
優れた芸術の価値を顕在化させ、未来社会のデザインに資する様々な研究の創出を目指します。

学生や教員の研究・制作活動を実践・支援することで学術研究と社会を結び、
社会と共創関係を構築するハブとして機能します。

- POINT 1 各附属機関の活動および大学全体の研究活動を支える土台。
- POINT 2 研究活動の支援を通して学生および教員・研究者と社会を結ぶ。
- POINT 3 学内外からの研究活動に関する相談窓口としての機能。



各附属機関に関する情報はこちらから

キャンパスが美術館 ウェブサイト
<https://artcenter.seian.ac.jp>



近江学研究所 ウェブサイト
<https://omigaku.org>



未来社会デザイン共創機構では、芸術分野における真摯な教育と研究を通して広く社会に貢献することを目指し、研究活動の推進・発信に取り組んでいます。
本冊子では、下記の事業分類に沿って、2021年度に行った研究助成事業や産官学および地域との連携事業等の活動事例をご紹介します。

[事業分類]

- 研究助成事業
- 共創プロジェクト（受託研究・共同研究・受託事業）
- プロジェクト科目・授業

● SEIANドリームプロジェクト（学生特別研究助成金）	3
● 「しがCO ₂ ネットゼロムーブメント」 ロゴマーク制作プロジェクト	5
● JR湖西線アートプロジェクト	7
● 大津市立和邇保育園アートプロジェクト	9
● びわ湖ホールオリジナル上演プロジェクト	11
● イベントのPRデザイン 国民健康保険料（税）納付意識啓発ポスターデザイン 「びわ湖の日」啓発ポスターデザイン	13
● 滋賀県立美術館リニューアルオープン記念展 「Soft Territory かかわりのあわい」 関連展示・ワークショップ	15
● プロジェクト科目・授業紹介	16
事業分類概要	17
2021年度事業一覧	18

*連携先の名称、学生の学年は2021年度当時の情報です。



成果発表展の様子 | 撮影:守屋友樹

SEIANドリームプロジェクト(学生特別研究助成金)

担当:未来社会デザイン共創機構

期間:2021年4月-2022年4月

研究活動の活性化を目的として、「SEIANドリームプロジェクト」(学生特別研究助成金)を実施しています。本学の学生・研究生から枠にとられない独創性豊かな研究・制作プロジェクトを募集。採択となったプロジェクトには、総額100万円の研究・制作資金の助成支援を行うとともに、相談や指導をはじめ、各種外部団体やスポンサー企業とのマッチングなどの活動支援を行います。

実施初年度となった2021年度は、個人・グループ含め全19件、総勢55名からの申請があり、審査を経て4件の研究プロジェクトを採択。残念ながら不採択となったプロジェクトに対しても、マッチング支援や滋賀県の「令和3年度学生団体活動補助金」を活用した伴走支援も行いました。



募集チラシ | デザイン:塩谷啓悟



1.近江の文化と絵画 川上容奈 | 情報デザイン領域4年生

歴史ある「大津絵」を現代的な画風や技術を用いて表現し魅力を伝えるとともにその場で作品について学ぶことができる新しい展示形態の実現を目指したプロジェクトです。大津絵を代表する作品を題材に現代風に描かれた平面作品《藤娘—大津絵十種—》に専用のカメラアプリをかざすとARフィルターで画面上に解説が表示されます。



3.一次産業の現場の見える化/アグチャ 三輪泰生 | 地域実践領域4年生 有澤愛祈 | 総合領域4年生 中谷 陸 | 情報デザイン領域4年生

食と農をテーマに活動するデザインユニット「アグチャ」による一次産業の可視化を目指したプロジェクトです。規格外野菜の見方を変えるデザインプロジェクト《おぼけのはたけ》や滋賀県の一次産業の働き方や取り組みについて楽しく学べるボードゲーム《びわこ暮らし》を制作しました。

スケジュール

2021年		2022年	
4月	情報公開・募集開始	11月	中間報告会
5月	募集締め切り	12月	
6月	審査・採択プロジェクト発表		
7月	支援期間開始	1月	
8月		2月	支援期間終了
9月		3月	報告書・パネル提出
10月		4月	成果発表展開催



2.《沖縄戦の図》からアーカイブの手法を研究する 藤本和颯 | 美術領域3年生

丸木位里・俊による作品《沖縄戦の図》を題材に文献調査や所蔵美術館への取材によるリサーチに基づいて考察を深めるプロジェクトです。さらに、研究を活かした大型作品制作に向け、壁画表現の1つであるフレスコ画の特徴や性質の調査も行いました。



4.地域社会とつながる拠点の提案 吉田芽生 | 総合領域4年生

2020年12月に閉店した大学内にあるカフェテリア「結」の新たな活用方法を検討・構想するプロジェクトです。学生と地域の人が協働し建設された大学と地域の協働活動の原点ともいえる場所を守り、在学生が能動的に関わるための動機づくりを目指したイベントを構想しました。



滋賀県知事定例会記者会見における完成報告の様子

「しがCO₂ネットゼロムーブメント」 ロゴマーク制作プロジェクト

担当教員:大草真弓 教授/石川 亮 准教授/田口真太郎 助教

期間:2021年5月-2022年3月

連携先:滋賀県総合企画部CO₂ネットゼロ推進課/公益財団法人 淡海環境保全財団(滋賀県地球温暖化防止活動推進センター)

参加領域:情報デザイン/地域実践

参加人数:4名

参加学生:
佐々木良緒(地域実践領域2年生)/武田早紀(情報デザイン領域3年生)/
土佐悠夏(情報デザイン領域3年生)/野田有美華(情報デザイン領域3年生)

国内外で地球温暖化や気候変動の進行を防ぐことが喫緊の課題になっており、滋賀県においても、2050年までに県内の温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す活動が始まっています。このプロジェクトでは、「しがCO₂ネットゼロムーブメント」の考え方をわかりやすく伝えて気運醸成を図るためのツールとしてロゴマークの制作に取り組みました。制作にあたっては、滋賀県CO₂ネットゼロ推進課、公益財団法人 淡海環境保全財団(滋賀県地球温暖化防止活動推進センター)と連携し、本学から4名の学生が参加してプロジェクトチームを結成。リサーチとディスカッションを重ねてロゴマークと展開アイデアを提案し、審査会を経て、情報デザイン領域3年生の土佐悠夏さんによるデザインが選定されました。完成したロゴマークは、ガイドラインのもとで、行政のみならず県民・事業者・団体などの一般使用も可能。多くの方に使用していただくことによって「しがCO₂ネットゼロムーブメント」が県内に広がることを願っています。



ロゴマークデザイン採用学生
土佐悠夏 | 情報デザイン領域3年生

「CO₂排出量を表すイエローとCO₂吸収量を表すグリーンが均等になった時、実質的にゼロになる」ことを表現するために、「0:ゼロ」を円グラフモチーフで視覚化しています。右下の図のように、排出量が圧倒的に多い[現状]の[C]と、排出量と吸収量が均等になった[目指す姿]の[0]の形をベースに、起こしたい変化を直感的に感じていただけることをコンセプトにムービングロゴも一緒に制作しました。また、このマークはネットゼロの「ゼロ」であると同時に「滋賀県」であり、中央の白い形はびわ湖を表現しています。びわ湖を取り囲む滋賀県民ひとりひとりの取り組みがやがて全員へとつながり、協力してCO₂ネットゼロを達成するムーブメントに育ってほしい、という願いを込めました。

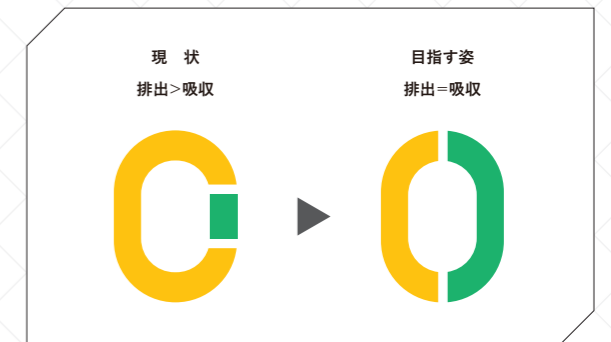
スケジュール

2021年	
4月	
5月	プロジェクト説明会
6月	リサーチ・ディスカッション
7月	ロゴマーク提案 第1弾
8月	リサーチ・ディスカッション
9月	ロゴマーク最終提案・審査会
10月	滋賀県知事定例会記者会見にて完成報告 滋賀県庁にて完成報告展示
11月	
12月	令和3年度しがCO ₂ ネットゼロシンポジウムにて完成報告
2022年	
1月	
2月	ロゴマーク・アイコン使用ガイドライン完成
3月	



参加学生集合写真

完成ロゴマーク



デザインコンセプト



近江舞子駅での展示風景

JR湖西線アートプロジェクト

担当: 未来社会デザイン共創機構 / 地域連携推進センター / キャンパスが美術館

期間: 2021年8月-2022年3月

連携先: 西日本旅客鉄道株式会社 (JR西日本)

参加領域: 総合 / 情報デザイン 参加人数: 5名

参加学生:
 出口陽菜 (総合領域3年生) / 野田愛莉 (情報デザイン領域3年生) / 本川友唯 (情報デザイン領域3年生) /
 村田真美 (情報デザイン領域3年生) / 村田 萌 (情報デザイン領域3年生)

2024年の湖西線開業50周年を前に、「湖西線の駅を人々が出会い、笑顔が生まれる駅にしたい」という思いを持つJR西日本と、「駅をアート化したい」と考えていた5名の学生有志が集まり、プロジェクトがスタートしました。
 賑わいある駅にするべく、2021年度は近江舞子駅を舞台に「あーとみーつおうみまいこ」と題したアートプロジェクトを始動。JR職員を交えたフィールドワークや意見交換を重ね、地域住民と《スタンドグラス風アート》を協働制作するワークショップと駅利用者や近隣住民から募ったイラストを作品へ展開する《おさかなポスト》を実施しました。
 完成した作品は近江舞子駅に設置され、駅舎を明るく彩りました。



スタンドグラス風アート ワークショップ風景



おさかなポスト 展示風景



出口陽菜



野田愛莉



本川友唯



村田真美



村田 萌

出口陽菜 | 総合領域3年生

授業ではなかなか接点のない人たちと関わることができたプロジェクトでした。特にJR西日本の方々とプロジェクトに取り組んだことは大きな経験となりました。作品を1つ展示するにもたくさんの確認事項があったり、担当部署に許可をいただいたり色々な仕事があるのだと学びました。
 初めてでわからないことも多く、不安と隣り合わせで進めている時期もありました。しかし、ワークショップやイラスト募集企画で子どもたちが参加してくれたことがとても楽しく、私はこういうことが好きなのだ実感することができました。プロジェクトに参加して本当に良かったです。

村田真美 | 情報デザイン領域3年生

企画段階から最終の施行までのプロセスを経験できるような大きなプロジェクトに関わることは初めてだったので、普段の大学生活では得られないような学びにつながりました。
 例えばチームメンバーとの連携や資材調達の方法、メールの書き方など、これから社会に出る上で自信になる力が身につきました。長期プロジェクトということもあり大変に感じることもありましたが、だからこそ得られた達成感は自分にとって貴重な財産になったと思います。

スケジュール

2021年		2022年	
4月		11月	実施プロジェクトの決定
5月		12月	
6月		1月	おさかなポストイラスト募集(1月-2月)
7月		2月	スタンドグラス風アートワークショップ実施 / 作品設置
8月	近江舞子駅フィールドワーク	3月	プロジェクト振り返り会議
9月	プロジェクト企画提案		
10月			



完成した樹のデジタルデータ

大津市立和邇保育園アートプロジェクト

担当:地域連携推進センター/教育連携推進センター/藤井俊治 助教

期間:2021年4月-2022年3月

連携先:大津市福祉子ども部子育て政策課

参加領域:総合/美術/空間デザイン

参加人数:7名

参加学生:
朝倉里帆(総合領域1年生)/上田千恵莉(美術領域1年生)/大原まりか(美術領域1年生)/林真莉乃(美術領域3年生)/
藤田さら(美術領域3年生)/森田 樹(空間デザイン領域1年生)/渡辺聖梨(美術領域3年生)

大津市からの依頼を受け、園舎の建て替えの完成と同時期に卒園する園児と共に、新園舎に設置できる作品を制作しました。学生チームを作り、園児ひとりひとりが何かを残すという達成感や思い出、好奇心、喜びを育むことを目的とした「視覚的に学べる・楽しめる」ワークショップを実施。葉っぱの形に切り出した紙に絵の具遊びをしながら色塗りを行い、色とりどりの葉っぱをもつ樹を完成させました。その後、園児が制作した葉っぱをスキャン・再構成し、デジタルデータへ。制作したデジタルデータは拡大印刷され、2023年3月に完成する新園舎に設置予定です。



ワークショップ風景



ワークショップ風景



藤田さら | 美術領域3年生

はじめは近くの小学校で行うために立ち上げた企画でしたが、市が関わる大きなプロジェクトとなり緊張しました。何度も保育園の職員の方、大津市役所の方と念入りな打ち合わせを重ねました。自信のあった案がうまく進まなかったりと心が折れそうになる場面もありましたが、物事を色んな視点で見る力やクライアントが求めるものを形にする力を身につけることが出来たと思います。ワークショップでは園児が楽しんでくれて達成感がありました。



プロジェクト参加学生・担当教員

スケジュール

2021年		2022年	
4月	学生チーム打ち合わせ	11月	ワークショップ実施
5月		12月	
6月	保育園視察	1月	データ作成・大津市へ納品
7月	園児との交流会	2月	
8月		3月	
9月			
10月			



映像、衣装、小道具、美術セットが劇場で融合する瞬間（2020年度成果発表公演《不思議の国のアリス》）

びわ湖ホールオリジナル上演プロジェクト

担当：田中秀彦 准教授／大野知英 非常勤講師

期間：2021年4月-2022年3月

連携先：公益財団法人 びわ湖芸術文化財団 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

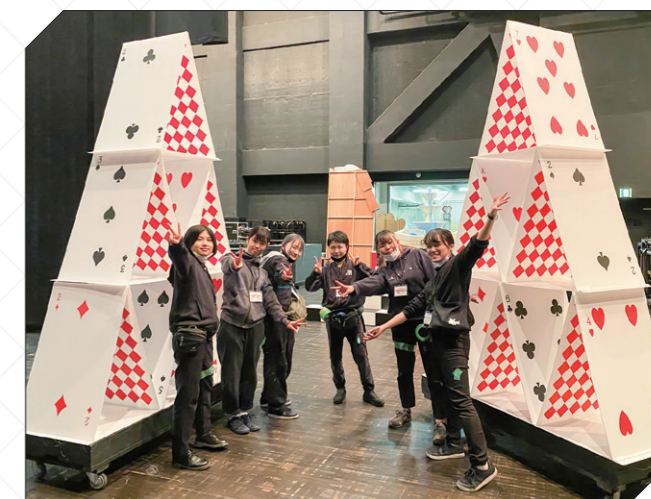
参加領域：総合／イラストレーション／美術／情報デザイン／空間デザイン／地域実践

参加人数：32名

びわ湖ホール舞台技術研修～人材育成講座～へ参加し、劇場機構や舞台裏の見学、プロスタッフによる講習を経て、びわ湖ホールが企画するミュージカルを制作、実際に観客の前で上演するプロジェクトです。受講学生は衣装、舞台美術、小道具、映像など希望の担当に分かれて活動を開始。専門技術のレクチャーを受け、デザインをプランニングし、プレゼンテーションを経て実制作に挑戦します。本格的な劇場でリハーサルから本番までをプロスタッフと一緒に体験する貴重な経験から、協働力、対応力といった総合的な力を学びます。2021年度はアンデルセンの名作童話《人魚姫》をテーマにオリジナルミュージカルを制作。完成した舞台は成果発表公演として2022年3月にびわ湖ホールで上演し、約600名の観客に鑑賞していただきました。（掲載写真は2020年度上演《不思議の国のアリス》と2021年度上演《人魚姫》の様子です。）



上：ドキドキの衣装合わせ
下：2021年度成果発表公演《人魚姫》



上：劇場に運び込まれて舞台に設置する前の美術セットの一部
下：舞台袖でのスタンバイ



金町早希子 | 美術領域3年生

台本を理解し、演出家、劇場スタッフの方々と打ち合わせをしたり、常に人と関わりながら進むプロジェクトなので難しいこともたくさんありました。自分のプランを言葉で伝える大切さや、コミュニケーションを取りながらものづくりをする重要性を学ぶことができました。私は舞台美術を担当し、物語を表現した空間を作りました。メンバーと協力しながら作り上げたセットが舞台に立ち、無事本番を迎えられたあの瞬間の喜びや達成感は一生涯忘れられない経験になりました。

スケジュール

2021年	
4月	プロジェクト説明会
5月	びわ湖ホール見学
6月	企画会議
7月	デザインプランニング
8月	
9月	
10月	プレゼンテーション
11月	
12月	修正ミーティング
2022年	
1月	
2月	実制作とリハーサル
3月	成果発表公演上演



左:国民健康保険料(税)納付意識啓発採用ポスター | 右:「びわ湖の日」啓発採用ポスター

イベントのPRデザイン 国民健康保険料(税)納付意識啓発ポスターデザイン 「びわ湖の日」啓発ポスターデザイン

担当:大草真弓 教授 / 石川 亮 准教授

期間:2021年4月-2022年5月

連携先:滋賀県国民健康保険団体連合会 / 滋賀県琵琶湖環境部環境政策課

参加領域:総合 / 美術 / 情報デザイン / 空間デザイン / 地域実践

参加人数:17名

広報・広告デザインを中心に、企業・行政・公共団体からの具体的な依頼に対するコンペ形式のデザイン提案を通して、実社会と直結するデザインワークにチャレンジする授業です。2021年度は滋賀県国民健康保険団体連合会から依頼された国民健康保険料(税)納付意識啓発ポスター、滋賀県から依頼された「びわ湖の日」啓発ポスターのデザインに取り組み、実践的なデザイン能力の習得に励みました。受講学生が制作したポスターは、審査会を経てそれぞれ1作品が採用され、滋賀県内各所へ掲示されました。



国民健康保険料(税)納付意識啓発ポスター 表彰式



「びわ湖の日」啓発ポスター プレゼンテーション風景



国民健康保険料(税)納付意識啓発ポスター デザイン採用学生

片山小巻 | 情報デザイン領域2年生

動物の貯食行動から着想を得て、リスが木の実を貯める様子で国保の「もしもの時のために備える」というポイントを表現しました。親しみを持って見ていただけるように、柔らかく優しい風合いのイラストに仕上げました。採用いただき入稿するにあたり、初めて外部の印刷会社の方とも関わらせていただいたので、プロの仕事の細やかさに新鮮に驚くと同時に、とても勉強になりました。

スケジュール

2021年	
4月	オリエンテーション・アイデアスケッチ
5月	学内プレゼンテーション・中間チェック
6月	学内プレゼンテーション・最終プレゼンテーション
7月	
8月	版下制作(採用者のみ)
9月	入稿(採用者のみ)
10月	納品・表彰式(採用者のみ)
11月	
12月	
2022年	
1月	
2月	
3月	



「びわ湖の日」啓発ポスターデザイン採用学生 佐々木良緒 | 地域実践領域2年生

このポスターは、「森・川・里・湖・海」のつながりに加えて、それらに関わる人々もびわ湖という存在でつながっていると伝えたいと思い制作しました。私はアルバイト先でびわ湖と農業のつながりを体で感じた経験から、林業、農業、飲食業というように職業として普段からびわ湖に関わっている方々も表現したいと考えました。アクティビティとしてびわ湖を楽しむだけでなく、普段からびわ湖と関わって働いている方々にも思いを馳せ、生活に根ざしたびわ湖のつながりを感じてもらえたら嬉しいです。

スケジュール

2021年	
4月	
5月	
6月	オリエンテーション
7月	リサーチ
8月	リサーチ
9月	リサーチ結果まとめ・共有
10月	アイデアスケッチ・中間チェック
11月	学内プレゼンテーション・最終プレゼンテーション
12月	
2022年	
1月	
2月	版下制作(採用者のみ)
3月	滋賀県庁での記者発表
4月	
5月	入稿(採用者のみ)・納品



左:MUSUBU地図 展示風景 | 右:ワークショップ風景

滋賀県立美術館リニューアルオープン記念展 「Soft Territory かかわりのあわい」関連展示・ワークショップ

担当:地域実践領域研究室

期間:2021年6月-2021年8月

連携先:滋賀県立美術館

2021年6月から8月に開催された滋賀県立美術館(旧滋賀県立近代美術館)のリニューアルオープン記念展「Soft Territory かかわりのあわい」において、地域実践領域研究室が主体となり関連展示とワークショップを行いました。

滋賀県琵琶湖環境科学研究センターの研究者と本学附属近江学研究所の研究者、デザイナー(南 琢也教授)が共創した、地形、歴史、文化、環境、エネルギーなどさまざまなデータを基にした地図を重ね合わせることで未来社会のあり方を想像するという、30枚を超える地図《MUSUBU地図》を展示しました。(協力:大滝山林組合/ながはま森林マッチングセンター)

「MUSUBU地図をつくる。～来るべき未来社会のテーマをつくる。～」と題したワークショップでは、滋賀県を大きく4種類(基盤、交通インフラ、エネルギー、コミュニティ)に分類した21枚の「要素の地図」から、参加者それぞれが気になるタイトルの地図を選び重ね合わせ新たな「共創の地図」を作成。それらにタイトルをつけ、エピソードを語ることで来るべき未来社会のテーマを創造します。当日は多くの参加者があり、複数の新しい「共創の地図」が生まれました。

スケジュール

2021年	
4月	
5月	
6月	展覧会期間開始
7月	講演会・ワークショップ開催
8月	展覧会期間終了
9月	
10月	
11月	
12月	
2022年	
1月	
2月	
3月	

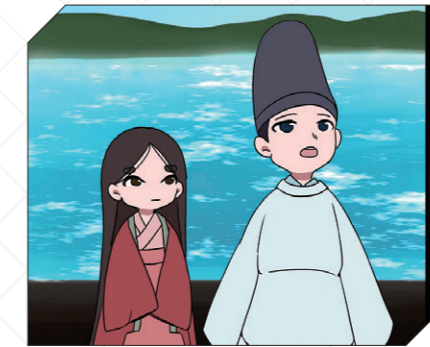
プロジェクト科目・授業紹介

未来社会デザイン共創機構では、プロジェクト科目等の実践型授業の運営サポートを行っています。官公庁や民間企業、各種団体、地域からの依頼を授業課題として取り入れ、成果をあげる取り組みの一部をご紹介します。



近江里山フィールドワーク

写真:上仰木地区で田植えをする学生の様子



大津市科学館 プラネタリウム アニメーション制作

写真:プラネタリウムアニメーション完成作品



大津市歴史博物館 おもちゃのワークショップ

写真:大津市歴史博物館でのワークショップ風景



大津祭曳山連盟公式キャラクター 「ちま吉」プロジェクト2021

写真:「ちま吉川柳コンテスト」開催 ほか



谷本勇写真作品デジタルデータ化 プロジェクト

写真:デジタル化するフィルム



地域とアート (堅田アートプロジェクト)

写真:堅田浜通り商店街ショーウィンドウでの学生展示風景



びわ湖大津館 光のアートプロジェクト

写真:イルミネーション会場風景



ビワイチプラスとコミュニティ

写真:サイクリング体験風景



リデザインプロジェクト

写真:大賞受賞作品(多機能ミールポーチ)

事業分類概要

研究助成事業

特別研究助成事業

本機構の設立に伴い、本学の研究活動をさらに活性化すべくリニューアルした、学内の「競争的研究資金」です。今日的な社会課題に対する斬新なアイデアやチャレンジ性を有する研究、科学研究費助成事業（科研費）の獲得につながる研究などを奨励しています。

科学研究費助成事業

日本学術振興会の科学研究費助成事業（科研費）は、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」です。本機構では、科研費の管理を行い、独創的・先駆的な研究を支援しています。

SEIANドリームプロジェクト（学生特別研究助成金）

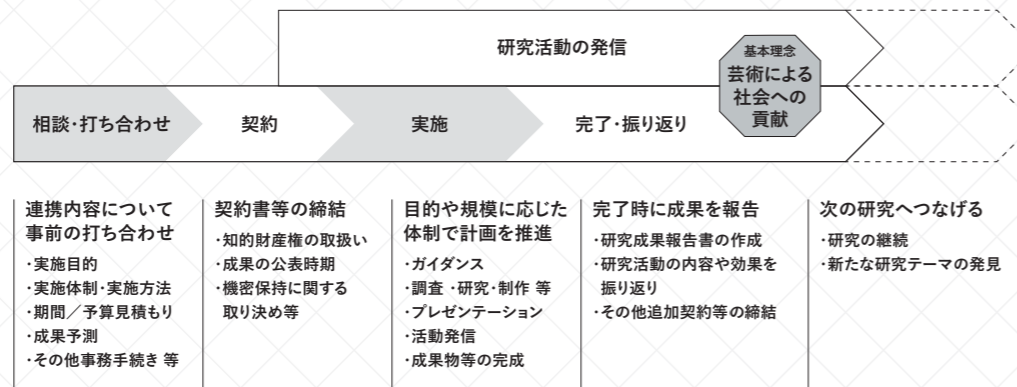
研究活動の活性化を目指し実施する学生特別研究助成金制度です。本学の学生・研究生から卒にとられない独創性豊かな研究・制作プロジェクトを募集し、採択者には総額100万円の研究・制作資金の助成支援をはじめ相談や指導、マッチングなどの活動支援を行います。

seianチャレンジ（学生が取り組む地域活動支援制度）*2022年度からスタート

本学の基本理念「芸術による社会への貢献」を具現化する学生の自主的・主体的な活動を支援する新たな支援制度「seianチャレンジ」を2022年度に新たに開設。最大5万円の助成支援、活動へのアドバイスなどの活動支援を行います。

共創プロジェクト 受託研究・共同研究・受託事業

官公庁や民間企業、各種団体から研究費（事業費）を受け入れ、研究・開発を行います。滋賀県唯一の芸術大学であるリソースを活かして、地域の課題解決や芸術文化の発展に向けた様々な企画を積極的に提案。地域と連携して、本学の基本理念である「芸術による社会への貢献」の実現に取り組みます。



プロジェクト 科目・授業

本学の教育カリキュラムの一環として、官公庁や民間企業、各種団体、地域からの依頼を授業課題に取り入れ単位認定を行う取り組みです。多くの成果物は実際に商品化されるなど、デザインやアートが実社会にどう関わっていくかを実践的に学ぶ機会となっています。本機構では運営管理・活動支援を行います。

2021年度 事業一覧

*連携先の名称は2021年度当時の情報です。

分類	プロジェクト名	担当	期間	主な連携先	参加領域	参加人数	
研究助成事業	特別研究助成事業	東近江市「近江匠人」認証制度の新規性・透明性訴求	大草真弓 教授	7月-2023年3月	-	-	-
		今日改めて検討する、絵画における時間や経験の特殊性と有用性についての研究 / 直接鑑賞とデジタルディバスを活用した間接的な鑑賞体験の比較検討	馬場晋作 准教授	7月-3月	-	-	-
		今日的な社会課題に対する斬新なアイデアやチャレンジ性を有する研究(萌芽的・挑戦的)課題に対する研究 / アフターコロナにおけるまちづくり事業の方向性変化によるまちへの影響	三宅正浩 准教授	2020年9月-2022年3月	-	-	-
	科学研究費助成事業	ZINE表現のリアル&デジタル国際交流「ZINE VIA-DIGITAL&REAL」	MON 教授	7月-3月	-	-	-
		里山における自然資本の意識化とネットワークのための地域参加型研究	永江弘之 教授	2018年-2021年	京都大学 深町加津枝 准教授	-	-
		ジェンダーインクルーシブなプログラミング教育教材の開発と普及	真下武久 准教授	2021年-2024年	同志社女子大学 有賀妙子 准教授	-	-
		アートによる地域再生の実践的検証-障がい者アートと地域アートの未来像を探る試み	馬場晋作 准教授 石川 亮 准教授	2020年-2022年	仁愛大学 三脇康生 教授	-	-
	SEIANドリームプロジェクト（学生特別研究助成金）	近江の文化と絵画 川上容奈 (情報デザイン領域4年生)	未来社会デザイン共創機構	7月-2022年4月	-	情報デザイン	1
		〈沖縄戦の図〉からアーカイブの手法を研究する 藤本和雄 (美術領域3年生)	未来社会デザイン共創機構	7月-2022年4月	-	美術	1
		一次産業の現場の見える化/アグチャ 三輪奈生 (地域実践領域4年生) 有澤実希 (総合領域4年生) 中谷 陸 (情報デザイン領域4年生)	未来社会デザイン共創機構	7月-2022年4月	-	総合、情報デザイン、地域実践	3
地域社会とつながる拠点の提案 吉田芽生 (総合領域4年生)		未来社会デザイン共創機構	7月-2022年4月	-	総合	1	
共創プロジェクト（受託研究・共同研究・受託事業）		バンダイHARUMIKA トルソー スタイル・ディスプレイ・映像制作	田中秀彦 准教授	2020年11月-4月	株式会社フェニクス	総合、情報デザイン、空間デザイン	24
		「L」がCO2ネットゼロムーブメント」ロゴマーク制作プロジェクト	大草真弓 教授 石川 亮 准教授 田口真太郎 助教	5月-3月	滋賀県総合企画部CO2ネットゼロ推進課、公益財団法人 淡海環境保全財団 (滋賀県地球温暖化防止活動推進センター)	情報デザイン、地域実践	4
プロジェクト科目		日吉大社 絵馬制作	地域連携推進センター 高田 学 准教授	5月-12月	日吉大社	美術	1
		滋賀県立美術館 リニューアルオープン記念展「Soft Territory かかわりのあらい」関連展示・ワークショップ	地域実践領域研究室	6月-8月	滋賀県立美術館	-	-
		大津市立和邇保育園 アートプロジェクト	地域連携推進センター 教育連携推進センター 藤井俊治 助教	4月-3月	大津市福祉子ども子育て政策課	総合、美術、空間デザイン	7
		BIWAKOビエンナーレ 作品制作	宇野君平 准教授	4月-3月	国際芸術祭 BIWAKOビエンナーレ 実行委員会	-	-
	JR湖西線 アートプロジェクト	未来社会デザイン共創機構 地域連携推進センター キャンパスが美術館	8月-3月	西日本旅客鉄道株式会社 (JR西日本)	総合、情報デザイン	5	
	近江里山フィールドワーク	今森光彦 客員教授 加藤賢治 教授 大原 歩 非常勤講師 佐藤悦子 特別講師	4月-3月	仰木自然文化庭園構想 八王寺組	総合、イラストレーション、美術、情報デザイン、地域実践	29	
	イベントのPRデザイン 国民健康保険料(税)納付意識啓発ポスターデザイン・「びわ湖の日」啓発ポスターデザイン	大草真弓 教授 石川 亮 准教授	4月-2022年5月	滋賀県国民健康保険 団体連合会、滋賀県琵琶湖環境部 環境政策課	総合、美術、情報デザイン、空間デザイン、地域実践	17	
	大津市歴史博物館 おもちゃのワークショップ	宇野君平 准教授	4月-3月	大津市歴史博物館	総合、イラストレーション、美術、情報デザイン、地域実践	19	
	大津祭曳山連盟公式キャラクター「ちま吉」プロジェクト2021	田中真一郎 教授 加藤賢治 教授	4月-3月	大津祭ちま吉協議会	総合、イラストレーション、美術、情報デザイン、空間デザイン、地域実践	24	
	クリエイティブであり続ける為 (澤田知子 作家論)	澤田知子 客員教授 南 琢也 教授	4月-9月	-	イラストレーション、美術、情報デザイン	19	
谷本勇写真作品デジタルデータ化プロジェクト	金澤 徹 教授 立花常雄 非常勤講師	4月-3月	大津市歴史博物館	総合、イラストレーション、美術、情報デザイン	11		
地域とアート(堅田アートプロジェクト)	馬場晋作 准教授 石川 亮 准教授	4月-3月	堅田浜通り商店街、堅田学区自治連合会 永楽自治会、滋賀県文化スポーツ部文化芸術振興課 美の魅力発信推進室	総合、イラストレーション、美術、情報デザイン、空間デザイン、地域実践	20		

プロジェクト科目	びわ湖大津館 光のアートプロジェクト	三宅正浩 准教授	4月-3月	琵琶湖汽船株式会社	総合、イラストレーション、美術、情報デザイン、空間デザイン、地域実践	23
	ビワイチプラスとコミュニティ	加藤賢治 教授 石川 亮 准教授	4月-3月	オーバルオペテックス株式会社、滋賀県商工観光労働部観光振興局ビワイチ推進部	総合、イラストレーション、美術、情報デザイン、空間デザイン、地域実践	23
	びわ湖ホール オリジナル上演プロジェクト	田中秀彦 准教授 大野知英 非常勤講師	4月-3月	公益財団法人 びわ湖芸術文化財団	総合、イラストレーション、美術、情報デザイン、空間デザイン、地域実践	32
	リデザインプロジェクト	田辺由子 教授	4月-3月	株式会社 Comodo LABO	イラストレーション、空間デザイン、地域実践	30
授業	大津市科学館 プラネタリウムアニメーション制作	高橋登美子 准教授 植村泰之 非常勤講師	4月-9月	大津市科学館	イラストレーション	11
その他	大津市 歴史的風致維持向上協議会 委員	加藤賢治 教授	2020年10月-2022年9月	大津市都市計画部 都市計画課	-	-
	滋賀県 観光事業審議会 委員	石川 亮 准教授	4月-	滋賀県商工観光労働部 観光振興局	-	-
	大津市 景観審議会 委員/景観アドバイザー	石川 亮 准教授	4月-3月	大津市都市計画部 都市計画課	-	-
	KEIBUN文化講座 講師	千速敏男 教授	4月-12月	株式会社しがぎん 経済文化センター	-	-
	湖南市 景観計画アドバイザー	石川 亮 准教授	4月-3月	湖南市都市建設部 都市政策課	-	-
	高島市 文化財保護審議会 委員	加藤賢治 教授	4月-2023年3月	高島市教育委員会 事務局文化財課	-	-
	高島市 景観審議会 委員	三宅正浩 准教授	4月-2023年3月	高島市都市整備部 都市政策課	-	-
	史跡草津宿本陣整備基本計画策定懇話会 委員	小寄善通 教授	5月-3月	草津市教育委員会 事務局歴史文化財課	-	-
	京都市 醍醐中央図書館 醍醐味講座 講師	加藤賢治 教授	6月	京都市醍醐中央図書館	-	-
	滋賀県 文化財保護審議会 委員	小寄善通 教授	6月-2023年5月	滋賀県教育委員会 事務局文化財保護課	-	-
	近江八幡 ふるさと観光券事業の実施に伴う、ガイドブック・Webサイト掲載商品審査会 審査員	田口真太郎 助教	7月-9月	一般社団法人 近江八幡観光物産協会	-	-
	米原市 歴史講座 講師	加藤賢治 教授	8月	米原市教育委員会 生涯学習課	-	-
	商工観光労働部試験研究機関研究外部評価会議 委員	石川泰史 教授	8月-2023年3月	滋賀県商工観光労働部	-	-
	令和3年度「Teck Lake Sprint」ファシリテーター	田口真太郎 助教	9月	一般社団法人 インパクトラゴ	-	-
	令和3年度 地球温暖化防止「COOL CHOICE(クールチョイス)」～しがCO2ネットゼロをめざして～に関する啓発用ポスター審査会 審査員	石川 亮 准教授	9月	滋賀県地球温暖化防止活動推進センター	-	-
	文社探求！に関するフィールドワーク報告会 講師	田口真太郎 助教	9月	立命館守山高等学校	-	-
	地域実践演習における集福寺市有林の活用方策に係る検討委員	石川 亮 准教授	9月-11月	長浜市産業観光部 森林田園整備課林業振興係	-	-
	高校生向けライフデザイン出張講座 講師	田口真太郎 助教	10月	NPO法人 ほんわかハート事務局	-	-
	青花紙保存継承懇話会 委員	加藤賢治 教授	10月-3月	草津市教育委員会 草津宿街道交流館	-	-
	フィールドワークショップ講義 講師	加藤賢治 教授 石川 亮 准教授	11月	株式会社 ツールドラック	-	-
	令和3年度 青少年関係団体ネットワークフォーラム 講師	田口真太郎 助教	11月	滋賀県健康医療福祉部 子ども・青少年局	-	-
	赤い羽根チャレンジ事業審査委員会 委員	田中真一郎 教授	12月-3月	大津市共同募金委員会 事務局	-	-
	令和3年度 第8回アーバンデザインセミナー 講師	石川 亮 准教授	1月	草津市総合政策部 草津未来研究所 (UDCBK)	-	-
	第14回淡海の川づくりフォーラム 選考員	田口真太郎 助教	2月	第14回淡海の川づくりフォーラム実行委員会事務局、滋賀県土木交通部 流域政策局	-	-
	令和3年度 観音の里歴史民俗資料館友の会 第3回講演会 講師	加藤賢治 教授	3月	高月観音の里歴史民俗資料館、観音の里歴史民俗資料館友の会	-	-

Co-Creation+
成安造形大学 未来社会デザイン共創機構
2021年度 研究・連携活動事例集

編集・発行：
学校法人京都成安学園
成安造形大学 未来社会デザイン共創機構

〒520-0248 滋賀県大津市仰木の里東4-3-1
tel: 077-574-2111(代表) | 077-574-2118(直)
fax: 077-574-2120
mail: mirai@seian.ac.jp

成安造形大学ウェブサイト：
<https://www.seian.ac.jp>



未来社会デザイン共創機構Facebook：
<https://www.facebook.com/seianmirai>



未来社会デザイン共創機構Twitter：
https://twitter.com/seian_mirai



成安造形大学 紀要：
<https://www.seian.ac.jp/attached/kiyo/>



発行日：2023年4月1日

アートディレクション/デザイン：塩谷啓悟

ISSN 2758-5697

